



共感よりも・・・他者との共生で大切なこと

川内有緒さんの著書『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』が、教えてくれたこと

目の見えない白鳥建二さんは全盲だけれど美術館が大好き。

目の前の作品について、同行する人たちに説明してもらおう。

それを聴きながら白鳥さんはずっと笑っている。

説明の言葉にはそれぞれ個人的な記憶や経験に基づく解釈が入り交じっている。

だから、実物を見ないで、同行者たちの説明だけ聞いていると、それがどんな絵画なのか彫刻なのか、インスピレーションなのか私たちには分からない。

でも、それが白鳥さんにとってはすごく愉快らしい。そうやって複数の同行者の主観的なアートの切り取りを聴きながら、白鳥さんは脳裏に『作品』を描き出す。

白鳥さんは幼い時に視力を失ったので、私たちが知るような「色彩」や「形象」の概念を持っていない。では、いったいどんなものが白鳥さんの脳裏に浮かんでいるのか。私には想像もつかない。

この「白鳥さんが何を見ているのか、想像がつかない」という経験が同行者を揺さぶるのである。

他者が世界をどう見ているのか、脳裏にどのような像を結んでいるのか私たちには分からない。

この決定的な共感の欠如に隔てられながら、私たちは一緒に笑ったり、美味しいものを食べたり気分のよい空間を共有することができる。

他者と共生するために必要なのは理解でも共感でもなく、一緒に居て楽しいということだ。



川内さんの本から大事なことを改めて教えてもらいました。他者と共生するために必要なことは「一緒に居て楽しいということ」。私も同感です。私は、子どもたちと関わる際、楽しい気持ちを大事にしながら接しています。自分が楽しんでいるかどうかは、子どもたちの表情を見れば分かります。

子どもたちと一緒に楽しむことの大事さを、先週の職員会議で先生方にも伝えました。

保護者の皆様がお書きになられた「みなさんのおかげですノート」を拝見すると、「子どもと一緒に楽しみたい」といった思いがたくさん綴られています。他者との共生で大切なことは色々ありますが、私は、「一緒に居て楽しい」ということが一番なのではないかと思っています。

動物と仲良くなろう

1年生が、生活科の授業で動物愛護センターの方々が連れてきてくださった犬と触れ合いました。(8日)

犬に触れた経験がない子も積極的に犬と触れ合い仲良くなっていました。



人権について学びました

3年生を対象に「人権教室」を行いました。(9日)「人権」というと、難しさを感じますが、講師の方々が、寸劇やクイズなどを交えながら分かりやすく教えてくださいました。仲間と自分を大切にできる南っ子に育てほしいと思います。



陸上記録会の壮行会

町陸上記録会の壮行会を行いました。(10日)4年生の応援団がリードし、下級生全員で元気にエールを送りました。勇氣100%の替え歌も披露され、5・6年生は記録会に向けて気持ちを引き締めていました。



晴晴チャレンジ(9月上旬)

